

団体名 南風原町立南風原小学校	連絡先 TEL: 098-889-2088 Eメール: se-haesyou4@pub. town. haebaru. okinawa. jp
---------------------------	--

1 実践事項 (②)

「支持的風土の醸成と自己肯定感を高める『レインボー7』の取り組み

2 実践内容

(1) 「はえばる小 レインボー7」とは

全児童共通の学習規律・生活規律の目標であり、前年度の全国学力学習状況調査児童質問紙や学校評価等から、課題のある7項目(①あいさつ ②準備 ③姿勢 ④そろえる ⑤しずかに ⑥名札 ⑦ふでばこ)を取り組み目標とした。実践及びめあてと振り返りを通したマネジメント・サイクルを行い支持的風土の醸成や個人の取り組みが学級・学校の全体の変容につながることを実感することで自己肯定感が高まること、そして、定期的な振り返りを通して児童自身が学び・育ちを実感することを目指した。

(2) 「レインボー7」のマネジメントサイクル(「支持的風土の醸成」「自己肯定感の高まり」「学び・育ちの実感」)

①振り返り(全学級児童)

毎月1回、学級毎に振り返りを行う。1・2学期は、確実な定着を目指し、はじめの月は毎週行う。

②学級単位での成果と課題の把握(児童・学級担任)

振り返りの結果は、各学級に掲示している振り返り表(図1)に記入する。達成状況が児童が分かりやすいように達成度に応じて、8割以上を青色・6割以上を黄色・6割未満を赤色で示している。

③学校全体としての成果と課題の把握(児童・学級担任・保護者)

各学級の成果をまとめ、児童玄関前に青色の合計数及び各項目の青色の数の合計を掲示(図2)している。掲示では、時間の推移と共にレインボー7の達成度の変化が視覚的に分かるように折れ線グラフで掲示し、毎月の合計数及び項目別に評価の言葉(図3)を載せている。

④家庭との連携

レインボー7の結果は、毎回「学推便り」として成果と課題を公開している。どの項目がどのように変化したのかを具体的に示し、伸びている項目や改善が見られる項目は評価し、また、課題の内容(児童だけでは準備が難しい「⑦ふでばこ」等)によっては家庭への協力を呼びかけ、連携して取り組むことを目指している。

⑤実践(全児童・全学級)

学級で定めた目標・解決策を重点に置き、レインボー7を一人一人が意識し、学級全体の課題として取り組む。

⑥学期ごとに現状と今後の方向性を確認する場の設定(プレゼンテーション)

毎学期の始業式で前学期の成果と課題を確認(図4)し、改善されている項目や達成率の高い項目については賞賛し互いを認め合い、課題となる項目については、達成率の高い学級の様子を動画で紹介し、目指す姿の共有を図り実践への手立てとしている。

(3) 「組織的な関わり」を目指す工夫

①前述の「(2)②」は学級ごとの掲示物、「(2)③」は全学級の合計の掲示物、「(2)④」は保護者及び職員への配布物(図5)となっており、学校としての達成度を、児童・教師・保護者が共有できるようにしている。

②前述の「(2)⑥」は、全児童及び全職員が同時に視聴することで、チーム学校として成果と課題、そして目指す姿を共有し組織的な実践への基盤となっている。

3 説明資料



(図1) 学級掲示の振り返り表



(図2) 全学級の合計数及び項目毎の掲示



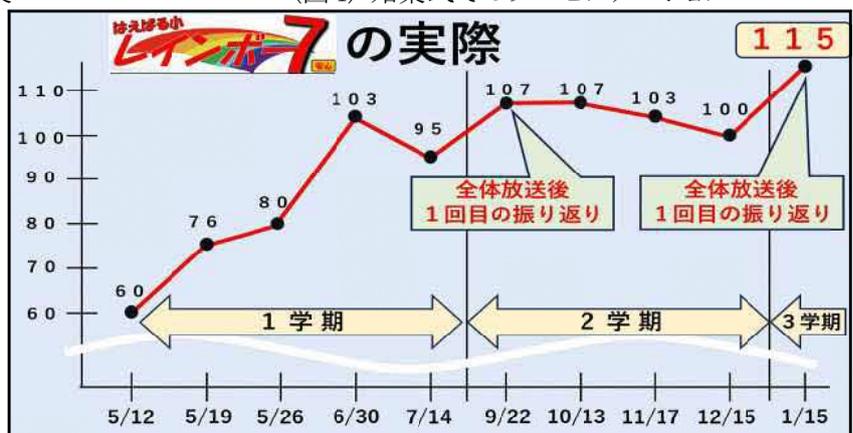
(図3) 項目別の評価の言葉



(図4) 始業式でのプレゼンテーション



(図5) 学推便り



(図6) レインボー7の合計数の推移

4 成果

- (1)「児童」・「教職員」・「家庭」が、レインボー7を共通の実践項目として理解し、毎月の評価や学期毎に評価を通して確実に定着が図られている。具体的には、1回目の合計数が60だったのに対し、直近の1月では2倍近い115となっている(図6)。
- (2) 毎学期の始業式後の校内放送を通じたプレゼンテーション後の振り返りは、2学期・3学期共に大幅な伸びが見られ、児童・教職員・保護者の連携の結果だと考えられる。

5 課題

現段階では、「①あいさつ」はあいさつ旬間、「①あいさつ」「②準備」「⑤しずかに」は、町の共通実践事項と関連づけているが、本取り組みは、支持的風土の醸成や自己肯定感の高まり、児童自身が学び・育ちを実感することを目指すものであり、魅力ある学校づくりの基盤である。今後、教科や特別活動、各種行事等と関連づけたり、児童自身が学校の課題を見だし、それをもとに「レインボー7」を深化させるなどといった、児童の主體的な取り組みへと移行していきたい。